

富士紀行（73） 雲上を巡り、天地の境を歩き、裾野を駆けよう！（1） （H13/6/6 記）

富士山及び周辺を訪れる人は、年間1600万人とも言われている。富士山を中心とする地図を眺めていると、面白いことに気付く。富士山を中心とする3つの環状路があり、それぞれに興味に富んでいる。

その3つの環状路とは、お鉢巡り、御中道巡り、そして、3本の国道で囲まれた富士山環状国道（と勝手に命名した）である。

その3つを概観しよう。

① お鉢巡り

富士山頂には中央の火口（大内院）を囲んで、白雲岳、久須志岳、大日岳、伊豆岳、成就ヶ岳、三島岳、浅間岳、剣ヶ峰の8つの外輪山（ピーク）がある。お鉢巡りとは、これらの”頂上”を一周するコース。

白雲岳、大沢の源頭、雷ヶ岩、釈迦の割石を通る所謂外院コース（4km、所要1時間30分）と、それをカットする内院コース（3km、所要1時間10分）の2コースがある。

コースのハイライトは、やはり、標高 3,775.6mの2等三角点のある剣ヶ峰、そこには、日本最高峰の碑が立っており、最高の撮影ポイント。最高の展望地点は白山岳と言われている。伊豆岳を下ると「荒巻」と呼ばれる溶岩が黄白色の地点なり。座ると微かに暖気を感じず。成就ヶ岳から「賽の河原」を過ぎると富士宮口の山頂に至る。

② 御中道巡り

富士山各登山道の5～6合目を連絡する、森林限界付近の、高度2100～2800[㍎]の周回・鉢巻き道である。かつては、富士講の信者として、富士山頂に3回以上の登頂経験のある者のみが次なる修行として巡拝することを許された「奥の院」であった。天と地の境界（天地の境）を一周する行程約20(or 21)km（所要時間は、12時間？）の、お鉢巡りよりも変化に富んだコースであるが、残念ながら西側斜面にある大沢崩れ（幅500[㍎]、深さ125[㍎]、長さ2.8kmの巨大な浸食谷、年に10万?もの土砂等流出）のため、周回することは不可だ（1977年滑落事故を契機に禁止された。）。

この為、お中道巡りは分けて歩かざるを得ない。スバルライン「御庭駐車場」から石段を登って御庭山荘、そこから南に御中道を歩く、滑沢を経て、1時間少々で、大沢崩れを眼前にするお助け小屋見晴台（富士三柱神社）に到着する。残念ながら引き返さざるを得ない。御庭から北回りすると、「河口湖口（小御岳神社）」「吉田口5合目」、「須走口6合目御胎内神社」を経て、宝永山に向かってトラバース、宝永火口で、火口底から火口壁を見上げると帯状の溶岩脈が大自然の凄絶さを物語っている。赤い岩や黒

い砂を見て、富士に悠久にして永年に於ける火山活動に思いを馳せるのも格別だ。「富士宮口6合目・5合目」「御殿場口6合目」、「執杖流し」、「天の浮橋（今は崩壊）・不動沢（雲切り不動）」で大沢崩れに至る。富士宮口から大沢崩れは、往復4時間の行程である。森林地帯あり、岩場・砂走有りの変化に富んだコースだが、その分相当ハードだ。御中道から少し外れるが富士の寄生火山の一つである奥庭探訪もお勧め。カラマツ、ミヤマハンノキ、ダケカンバ、シラビソ等の林あり、オンタデ、イワツメクサ、フジハタザオ、イワスゲ、シャクナゲ、ムラサキモメンヅル、イタドリ等の高山の植物が多く見られるそうだ。

演習場は道場なり

演習場を常に安全で整然とした状態に保つことが重要である。演習場は、我らの心身を鍛える道場なのである。使用部隊自らが行う使用者整備が基本であるが、それだけでは万全ではない。従って、定期的に点検や整備を行って演習場を道場らしい場にすべく努力している。

演習場定期点検を、月に一回通常月末、隊員600名弱を動員して、不発弾等の捜索・回収・処理を行うと共に、計画的に場内清掃を行っている。須山国道に沿う地域や演習場内道路沿い、宿営地域等のゴミ収集がメインである。先般訓練視察の際須山国道沿いのゴミ収集状況を見たけれども、缶やペットボトルの多さにあきれた次第。

年2回春秋には、演習場定期整備を、毎週末には、終末点検を行い、安全の確保と演習場の効率的維持・管理に務めている。

【閑話休題】

③ 富士山環状国道

富士山環状国道は、国道138号線～{仁杉}～国道469号線（須山国道）～{北山IC}～国道139号線（富士宮道路）～{富士吉田市}～国道138号線で囲まれた総行程約100Kmの国道の総称である。（小生が勝手に命名したものです。）一部分では、旧道を通り出来る。

（参考：各種パンフレット等）